

夏休みエコいえ作り体験ワークショップ

in 船坂 を開催しました！

住まいづくりニュース



第 13 号

令和元年 8 月 3 日（土）、船坂里山学校（旧船坂小学校跡施設）にて「夏休みエコいえ作り体験ワークショップ in 船坂」を開催しました。暑い中合計 54 名の方にご参加いただきました。

当日は、平成 24 年度の市民ワークショップ「宮っ子エコいえワークショップ」の内容をまとめた「宮っ子エコいえBOOK」を基に、自然と共生した住まい「エコいえ」について学び、船坂地区に残る茅葺屋根の古民家改修現場の見学をした後、学んだことを生かしてエコいえの模型作りを行いました。

講師には、人・まち・住まい研究所の浅見雅之先生、一級建築士事務所 YURIDESIGN の前田由利先生をお招きし、「エコいえ」に関するレクチャー、「エコいえ」の模型づくりのアドバイスをいただきました。また、古民家改修現場の見学では、武庫川女子大学の学生さんが中心となって古民家の再生を行っている「古民家族」の皆さん、そのサポートをされている古材問屋の明木哲生さんにご協力いただき、古民家について分かりやすく説明していただきました。

□1. 「エコいえ」について学ぶ

先生のお話(15分×2=30分)



はじめに浅見先生から、人が暑さや寒さを感じる原因、暑さや寒さをコントロールする方法について説明いただきました。また、家のモデルに太陽光をあててどのように光が差し込むかのシミュレーションを使いながら、ひさしなどの有効性についても分かりやすくお話いただきました。

●「エコいえ」とはなんでしょか？

電気やガスなどのエネルギーをあまり使わずに暮らせるいえのことです。

●いえの中をすごしやすくするには

「あつさ・さむさのコントロール」が大切です。

① 太陽をうまく使いましょう。

ひさし、すだれはとても効果的です。

② 壁をとおり抜ける熱をさえぎりましょう。

高断熱、高气密にすることが大切です。伝統的な土蔵や古民家の壁は高断熱です。

③ 風や空気の入りをコントロールしましょう。

建物の低いところと高いところに穴をあけておくと空気が流れるので、風がとおります。



浅見先生の説明

次に、前田先生から「草屋根」を利用したエコで涼しげな暮らしについて、自邸や前田先生の設計事例などを交えながらお話いただきました。



前田先生の説明

私の家は石油化学製品をなるべく使わず木や土を使い、屋根は草屋根です。子ども部屋が屋根裏部屋でその暑さ対策のために屋根に草を生やしたら涼しくなるのではということで、草屋根にしました。カラーベストの屋根の表面温度は真夏で 60 度近くなりますが、草屋根は 35 度程度にしかありません。夏もあまりエアコンを使わずに過ごすことができます。草屋根は春になればいろいろな花が咲き、秋になればコスモスも咲きます。今の時期はスイカやカボチャ、メロンもなります。スイカもけっこう甘くておいしいです。

先生方からエコいえの話聞いたあと、芝生と鉄板屋根に太陽光をあててどれだけ温度が違うか実際に計測を行いました。



ランチルームから徒歩 5 分くらい歩いたところにある茅葺屋根の古民家の見学に行きました。ここでは、「エコいえ」を体感してもらいながら、古民家改修現場に携わっている「古民家族」の学生さんから古民家についてわかりやすく説明して頂きました。

□2. 古民家の見学

見学 (50分)



- 今日見学してもらう古民家は、屋内はおおむね完成しており、屋根は修復中です。
- 古民家は釘などの金具は使わず、土や木、萱などすべて自然のものでできていてとてもエコです。
- 茅葺屋根は分厚いため太陽の光をさえぎって屋外よりも涼しいです。5 度くらいは低いと思います。
- 屋根の材料として小麦を育てています。茎の部分は空洞でストローのようになっていて水が中まで染み込まず雨漏りしにくいです。
- この屋根を修復するのに 10t トラックで約 15 台の材料が必要です。茅葺屋根はものすごく重たいです。



中には囲炉裏があります



外で土壁用の土を練っています

Q: 修復作業で大変だったことはなんですか?
A: 大変なことはたくさんあるけど楽しいです。皆で助け合いながら協力して作業することがとても大切です。

古材問屋の明木さんと古民家族の皆さん



講師からのお話と古民家見学を通して「エコいえ」へのイメージがそれぞれ膨らんだところで、実際にエコいえの模型作りをスタートしました。

□3. 「エコいえ」を作る

工作（120分）



模型作りでは、骨組みの家キットにすだれや毛糸、折り紙、スポンジ、粘土等のいろんな工夫材料を加えて、それぞれ個性溢れるエコいえに仕上げていただきました。



□4. 「エコいえ」工夫ポイント発表

発表（35分）



個性豊かな31軒のエコいえが出来上がり、講師の先生方からのコメントを頂きながらそれぞれの工夫ポイントや感想について何人かの子供たちに発表してもらいました。



みんなの工夫した点

- すだれを付けて日差しをさえぎりました。
- 壁を土壁にして断熱性をよくしました。
- 草屋根と緑のカーテンを付けて涼しくしました。
- 屋根に窓をつけて風通しを良くしました。
- 床をあげて空気が通るようにしました。



先生方も「私たちが説明していない部分もエコになっていてみなさんから勉強させてもらうことも多かったです」とお話されていました。

講師のプロフィール

浅見 雅之(あさみ まさゆき)

合同会社 人・まち・住まい研究所の代表社員。自然と共生した住まい(エコいえ)の観点で設計業務をする傍ら、摂南大学理工学部の講師やまちづくり専門家として多方面で活躍。「宮っ子のいえアドバイザー」として西宮市内でエコいえの出前講座にも対応。

前田 由利(まえだ ゆり)

一級建築士事務所 YURIDESIGN 代表。草屋根の建築家として数多くの自然と共生した住まい(エコいえ)を手がけている。また「住宅・環境・屋根緑化」をテーマにした講演・執筆活動など、多方面で活躍。「宮っ子のいえアドバイザー」として西宮市内でエコいえの出前講座にも対応。

古民家族(こみんかぞく)

武庫川女子大学生生活環境学部の学生有志が主催している古民家再生団体で、西宮市山口町船坂にて毎月1・2回活動している。解体寸前であった茅葺き古民家を、伝統工法に基づきボランティアで修復し、その過程で日本の伝統文化や建築様式について研究している。

船坂里山学校(旧船坂小学校跡施設)について

明治6年に開校し平成22年3月末の閉校まで、137年の歴史を有する西宮市で最も古い小学校のひとつで、校舎の大部分が木造となっています。現在、地域の皆さんと市が協働して跡施設の活用について取り組んでいます。平成28年4月より「船坂里山学校」に名称を変更。

皆さんの地域でも「エコいえ作り体験ワークショップ」をしませんか？

皆さんの地域でもエコいえ作り体験ワークショップを行いたい場合は、「宮っ子のいえアドバイザー派遣制度」を活用して開催することが可能です。

「宮っ子のいえアドバイザー」がお手伝いに伺います。

詳しくは市HP「宮っ子のいえアドバイザー派遣制度」をご覧ください！



今後もこのようなイベントを通じ、「エコいえ」について学ぶ場を提供していきたいと考えておりますので、引き続きすまいづくり推進業務へのご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。

お問い合わせ先 西宮市 都市局 都市計画部 すまいづくり推進課 TEL:0798-35-3761